

## 第8回滋賀県首長会議の概要

1. 日 時 平成29年4月11日(火) 14時～16時20分
2. 場 所 長浜市役所 3階特別会議室
3. 出席者 知事、16市町長(欠席:草津市長、豊郷町長、甲良町長)
4. 概 要

### (1) 滋賀県東京日本橋新拠点へのオール滋賀での取り組みについて

#### 【竜王町提案概要】

- 本年10月に東京日本橋にオープンする滋賀の新拠点は、東京駅から徒歩圏内という素晴らしい立地条件であり、その有効活用が滋賀県にとっても県内各市町にとっても共通の願いである。
- 滋賀県の誇る「近江牛」「近江米」「新鮮野菜」「歴史・文化」などの魅力的な素材を各市町が持ち寄り、市町ごとにイベント型や展示型を選択する市町提案型リレー方式のイベント開催や自然、歴史、文化、芸術、食などの分野からテーマを絞り込んだテーマ別企画展を提案したい。
- これらの素材をいかに見せて(魅せて)いくかが、この拠点の胆となるため取り組みについて議論したい。

#### 【知事補足説明概要】

- 首都圏で滋賀の魅力を体感できる施設として拠点を整備する。全国・世界から選ばれる滋賀を目指したい。今年3月に竣工した2階建ての建物を1棟丸々借り上げて運営する。
- 近隣のアンテナショップを巡るファンと東京の滋賀出身者をベース利用者とし、上質さを求める女性、ビジネスパーソン、欧米やアジアの外国人をターゲットとしたい。
- 1階では滋賀の特産品を実演販売する。また滋賀の地酒を楽しめるバーカウンター、外から直接つながるテイクアウト、さらに滋賀への来訪を促す観光案内等も行う。2階は近江牛や鮎ずしなど発酵食品をはじめとする滋賀の食を味わっていただける和食ダイニングを展開する。屋上テラスも専有的に利用できる。
- 竜王町長から提案のあった市町提案型リレー方式やテーマ別の企画もよいと思う。見(魅)せ方の工夫が必要であり、パッケージや内容を変えるなど工夫をしながら、滋賀の良いものがより良くなるようにしていきたい。

#### 【市町長発言概要】

- 市町提案型やテーマ別のイベントはよいと思う。テーマなどは具体的にどう取り組めるのか。常にこの施設ではイベントをしていくのか。今後のスケジュールや収容スペースはどうなっているのか。
- せっかくの拠点なのだから、単なる物販や飲食に偏らず、滋賀県に人を呼び込むようなソフト機能を充実させてほしい。
- いい場所であり使い方が大事だと思う。建物自体が情報発信になると思うが、県はどういうコンセプトで情報を発信するのか。
- 各市町が利用する場合は無料となるのか。
- 情報発信だけでなく、エージェント紹介機能もつけてほしい。また、ぜひ首都圏に顔のつ

ながる人を配置してほしい。

- 日本の情報は全部東京から発信されている。各市町の情報が雑誌、テレビや新聞で取り上げてもらえるよう、拠点にはメディアとのつなぎ役の機能も果たしてもらいたい。
- 面積が狭い。最初にやることを具体化して必要面積を出してから場所を探す方法もあったのではないか。

### 【知事発言概要】

- スケジュール等は今後お示ししたい。オープンは10月なので、企画案を練り提案したい。市町だけでなく商工会連合会など業界団体の利用もありうる。イベント開催の拠点内収容人数は10～25名で制約される。もっと大きなイベントをする場合には、運営事業者が所有する施設で開催するなど考えたい。
- 常にイベントが行われているのが理想ではあるが、費用対効果で難しい。常設のレストランもあり一定の制約がある。今後、利用方法について提示したい。
- 場所がよいので外向けの情報発信も検討しているが、屋外広告物規制があり制約が多い。コンセプトとしては、琵琶湖を真ん中にした滋賀の文化、食、観光を紹介するとともに体験、体感、いぎなう拠点としたい。各地のヒト、コト、モノ、食がどうしたらより良くなるのか、首都圏での商いで磨きをかけたい。
- 市町の情報提供は無料である。但し、委託業者が入って利益が出るなら調整が必要となる。
- より強く、ネットワーク力の高いメディアのある東京から情報発信することが重要である。また、つながり、素材、話題性も必要である。今後、在京メディアとの関係づくりにもしっかりと取り組んでいく。
- 何をするか決めてから物件を探すのは理想的だが、東京ではそれが難しい。所有者は近江商人にゆかりがあり理解してもらえた。確保できたスペースを最大限有効に使いたい。

## (2) 小学校の英語教科化について

### 【米原市提案概要】

- 平成32年度から新学習指導要領が全面実施され、小学校で英語教科化が導入されるにあたり、指導教員、外国人指導助手や国際理解教育協力員の確保、授業時間数の確保が課題となっている。
- 小学校の英語教科化に向けた各市町や県の取組について情報共有を図りたい。また、県には英語教育の推進のためリーダーシップを発揮してもらいたい。

### 【市町長発言概要】

- 県立高校の入試について、リスニングの割合を増やしたり、スピーキングを入れたり、外部試験を加味するなど検討できないか。高校入試が変われば、中学校の学習や子どもたちの取組姿勢も変わるのではないか。これから学力調査にスピーキングが入ることになるため、システムとしても高校入試でできる。
- 英語に親しむとなるとICT教育が絡んで来る。各市町で施設面、教材面で揃えないといけないが、県としての基準はどう考えているのか。例えば今やスマホで英語はすぐに翻訳できる。スマホを持たせては駄目という時代から、メリハリをつけるなどの基準は必要ではないか。

- 英語教育は大事だし、基準以上の時間を割いて子どもたちに勉強させている。英語教育は早ければ早いほどよいので一部ではあるが幼稚園にも導入する予定である。
- 指導者の育成がなかなか上手く行っていない。義務教育として県内各市町で一定のレベルを担保できる先生の育成をお願いしたい。JETの先生も来ていただいているが日本語が理解できず十分なコミュニケーションが取れないなどの課題がある。英語はリスニングが重要であり、できるだけ早いうちに耳を鍛えることが大事だと思う。
- ミシガン州立大学連合日本センターは教育の質も良く、活用するために県による予算措置を考えてほしい。
- 県立高校と海外の高校との交換留学制度を検討いただければありがたい。
- 中高6年と大学2年の計8年でもものにならないから2年前倒しするというが、早くやればネイティブに近づくというような単純な話ではない。また、今の日本の状況ではすべての子どもたちが大人になって英語を使うかは疑問。現場は35時間をどう吸収するかで困っている。
- バイリンガルを育てたいのか、コミュニケーションができる程度でよいのか、趣味程度なのかをはっきりさせるべき。県として専門的な方も入れて英語教育の在り方について整理してほしい。また、教員の育成ももう少し頑張ってもらいたい。
- これまでの英語教育の課題を整理して、目指すべき到達点を定め、改善点を検討する必要がある。必要な教員は国の予算措置の中で県がしっかりと配置してほしい。
- 日本語で論理的に考える力が大事である。10年もすればスマホで翻訳ができるようになり、コミュニケーションは対応できるのではないか。むしろ、子どもを取り巻く課題は多い中で、英語教育の優先順位は考える必要がある。国が決めたことなので一定はやらなければならないが、優先度は県教委として考えていただきたい。

### 【知事発言概要】

- 県立高校の入試の見直しについては、教育委員会で決定するものである。ご意見は持ち帰り、教育委員会に検討できないか伝える。
- グローバル化、ボーダーレス化が進行する社会においては、多様な人とのかかわる機会があることから、系統だった英語教育は大事だと思う。
- 今年度は県内5地域を英語教育の強化地域に指定して子どもたちに身に着けさせたい力を明確にした授業開発に取り組んでいる。また滋賀大学教育学部と連携して各市町教育委員会から推薦をされた小学校の現職教職員34名に、中学校教員外国語科の2種免許状を取得させることや、小学校の教員採用試験の第二次選考の実技試験で、外国語活動の指導能力を見る内容を追加するなどし、外国語の指導力のある教員の確保に努めている。
- 小学校英語パイオニアプロジェクトとして英語専科指導加配教員を各市町1人ずつ配置している。モデルとなる授業の研究開発、新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画や学習指導案等を作成していただきたい。
- ミシガン州立大学連合日本センターと協力して教員が生きた英語を学ぶプログラムを作っている。教育委員会では、このような対応により、英語教育を進めこれからの時代に求められる教育として本県の教育を充実させようとしている。
- グローバル社会を生き抜くために英語を使ったコミュニケーションができるように対応で

きる必要があるが、学校が抱える課題も多く、いたずらに混乱させることのないよう、どこまで対応するか考える必要がある。

- それぞれの市町では特色のある英語教育を推進していると伺っており心強く思っている。これからも県と市町が一体となって英語教育の推進に頑張ってもらいたい。

### **(3)「びわ湖の日」について**

#### **【滋賀県提案概要】**

- 今年天智天皇が大津に都を開かれてから1350年、琵琶湖就航の歌から100年、大規模な赤潮の発生から40年であり、琵琶湖保全再生法に基づく保全計画元年である。多くの県民が琵琶湖に思いを寄せ、琵琶湖をよりよくするための取組として、7月1日を「びわ湖の日」として休日にする事に向けた検討をしたい。
- 休日の制度には、地方公共団体の休日、教育機関の休日、民間企業等の休日の3つがある。地方自治体の休日は2例ある。沖縄県の「慰霊の日」と広島市の「平和記念日」である。その他、県民の日などに公立学校を休日としている例がある。期待される効果や留意すべき事項を踏まえて検討していくことが大事であり、皆さんの率直な意見を伺いたい。

#### **【市町長発言概要】**

- 県庁では20年ほど前に議論された古い話で、なぜ今さら出てきたのかわからない。学校現場は時間の確保が窮屈で新たに休日というのは現場にそぐわない。市町村は住民基本台帳ネットワークで全国と結ばれており、滋賀県だけ休むのは困難である。
- 民間企業も滋賀県だけ休むのは難しいのではないかと。観光客がくるかもしれないと言っても、46都道府県は休日ではなく、有効性に疑問がある。県民理解はどうか。住民こぞってというが、琵琶湖に接していない市町もある。
- 地方自治法の休日要件は制限列举でありかつ厳格に解されるので、広く国民の理解を得られるものとして理解されるかどうか難しいのではないかと。
- 滋賀らしさということを前面に出すことを控えてもらえないか。全国的な制度に滋賀らしさということを持ち込まれると、現場が困る。
- 「びわ湖の日」に県民全体が琵琶湖のことを考えることは大切なことだが、学校や企業の理解が得られるかが重要である。思い付きであるが、びわ湖の日を7月第1日曜日にするというのも考えられるのではないかと。その日はびわ湖の清掃をしようとかムーブメントを起こす仕掛けを考えてほしい。ピワイチで湖周道路を一定時間通行止めにして自由に自転車で走れるようにするとかできないか。
- 琵琶湖に面していないが、「びわ湖の日」の取組は賛成である。
- ただ、なぜ休日なのかはもっと説明が必要なのではないか。この機会に山や川に対して県としてどう取り組むかを整理してもらおうことが大切で、有機的に結んでほしい。
- 完全な休みか、何かをするための休みか。アンケートなどは、休みにする目標と課題・リスクを明確にした上で実施する必要がある。
- 県下一斉清掃は7月1日にするのか。現在は2週間の間でやってもらっている。それと県立高校は休むのか。小中学校は厳しい。事業所も止められない。7月1日は富栄養化防止条例が施行されたというだけではないのか。誰に休んでもらい、何をやってもらうのか。ここに持ってくるまでにもう少し議論があってもよかったのではないかと。否定するつもり

はないがぜひ慎重に進めてもらいたい。

- 学校は勤務日で仕事の中でやっているが、これを休日になると休日出勤になる。夏休みの取組とは違う。そこまで考えてほしい
- 琵琶湖を滋賀県民として大事にするという思いは大事なので、ステップバイステップで進めてもらいたい。県外企業は休日とするのは難しいだろう。
- 琵琶湖新時代とかビワイチとか、なんでも琵琶湖にシフトしすぎ。琵琶湖は県土の6分の1だが、森林は50%以上ある。知事は森林や川を大切にと言われるが、山や川の具体的な施策が出てこない。琵琶湖が目立ちすぎており少し抑えられたほうがよいのではないか。
- ビワイチは自転車で滋賀県を走るということ。琵琶湖の周りだけでなく、山の方や観光地も巡るような形に広げていきたい。誤解なきようお願いしたい。
- 琵琶湖に面していなくても県民全体で支えてもらいたい。7月1日は理解できる。基本条例ができて20年でどれだけ県民に浸透しているか。県民の方がびわ湖の日を認識しているかという課題が残るのではないか。7月1日を休日にとアドバルーンを上げるのは、違和感がある。論理的につなげる説得力がないのではないか。しばらくは県民理解を深めてほしい。
- 授業が間に合わないので夏休みを短くしている中で、琵琶湖をクローズアップさせるために休日にするのはおかしい。企業は自分達のカレンダーで動く。休みはあくまでも休みであり、清掃をしようというのもおかしい。沖縄慰霊の日や広島平和記念の日と一緒にするのは厳しいと思う。冷静な議論をお願いしたい。

#### 【知事発言概要】

- 吟味しながら今後より良い提案をできるようにしたい。私たちが預かる琵琶湖は山にもつながっている。より良くするための活動をさらに広げ、より良くしていくための方策として休日を提案した。県立高校の休日は検討しているが、学校行事や期末試験などの調整が必要となる。市町は基礎自治体としての業務の対応もあり、民間企業も就業規則や労使で決めるので強制できない。
- 小中学校ではなんらかの琵琶湖環境の取り組みをしているので「びわ湖の日」近くで行うとか、民間企業も積極的に取り組んでいただいているところもあり、参加できるところをお願いしたい。
- 琵琶湖の課題はなおたくさんあるが取り組んでいきたい。あくまでも休日はツールであり、取り組みを充実していくことが目的である。
- 丁寧に議論を重ねたい。あえて早めに提起した。業務としてやっていただくこともあるが、一県民としていろんな角度から琵琶湖を考えてもらいたい。